



大王のひつぎを運ぶ実験航海

現在、全国的な注目を集めている馬門石。宇土を舞台にした日本古代史上の謎に皆さんも挑んでみませんか。

第一部 現実に夢の向けて

第一回 継体大王のひつぎを復元

実験航海に伴い復元した石棺は、今城塚古墳（大阪府高槻市）で平成10年1月に発見された馬門石製石棺をモデルにしています。今城塚古墳は6世紀前半に造られた巨大な前方後円墳（全長186m）で、西暦507〜531年に在位した継体天皇の墓と考えられています。



石棺の製作に取り組む高濱英俊さん

市文化振興課の 木恭二さんは、その墳丘の一番高い所から見慣れたピンク色をした赤い石片を見つけました。その石片を分析用に持ち帰って鑑定したところ、馬門石製の石棺片であることが明らかにまりました。1500年も前に造られた馬門石の石棺が、遙か800kmも離れた継体天皇の墳墓から一つの石棺の破片となつて現代に蘇つたのです。

2カ月で製作

石棺の復元図は実験航海の構成団体・石棺文化研究会のメンバーが何度も協議して作成、石棺の製作は不知火町出身の彫刻家・高濱英俊さんが担当しました。高濱さんは東京を中心に活躍中で、以前、本市の町おこし事業で馬門石



完成した馬門石の石棺

の彫刻を造っていただいた経緯があります。6月初旬から7月末の約2ヶ月間かけて石棺の製作に携わっていただきました。高濱さんによれば「馬門石は比較的軟らかいが、硬さにムラがあり加工は一筋縄ではいかなかった」そうで、石を彫って形が徐々に現れてくるにつれて、大きな喜びを感じたということです。さる7月24日、馬門地区で石棺・修羅完成、引き出しセ

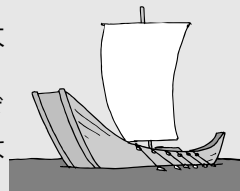
古代船の船名募集

命名当選者には賞金 10 万円と記念品

古代史上の謎に挑む「大王のひつぎ実験航海」で石棺を海路搬送していく古代船の船名を募集します。

実験航海は、近畿や中国地方の有力豪族の墓から出土する馬門石製石棺と古代船を復元し、来年夏、有明海から大阪湾へ石棺搬送航海を再現する計画です。

宇土(有明海) - 東シナ海 - 関門海峡を経て大阪湾をめざす古代船にふさわしい名をつけてください。命名当選者には賞金 10 万円と記念品を差し上げます。



【応募要領】

官製はがきに、古代船名、住所・氏名・電話番号を記入のうえ、〒869-0433 宇土市新小路町95 宇土市教育委員会文化振興課宛に郵送して下さい。締切りは10月10日(当日消印有効)です。

問い合わせ先 市文化振興課 ☎ 6500 (代表) ☎ 0156 (直通)

大王のひつぎ実験航海実行委員会

(宇土市・熊本県青年塾・石棺文化研究会・読売新聞西部本社)

レモニーが、馬門石で造られた赤い鳥居がある大歳神社前で行われました。地元住民・住吉中・網津小・網津保育園など約300名が参加し、石棺、修羅合わせた総重量約9トンを皆で力を合わせ曳っぱ

りました。太古さながらの陸路輸送を体感し、石棺と修羅が数メートル動いたときには大きな歓声があがりました。今回は「古代の運搬具『修羅』の復元に挑戦」です。